

“ホベツアラキリュウ”



1975年に化石愛好家の荒木新太郎氏により穂別で発見されたことにちなみ、“ホベツアラキリュウ”の愛称がつけられた首長竜です。頭部や首を除く大部分の骨の化石が発見されており、1989年にエラスモサウルス科に属することがわかりました。その後の研究や全身骨格の復元により、後期白亜紀のエラスモサウルス科としては標準的な体形であったと考えられています。

穂別の同じ時代の地層からは、ティロサウルスの一種（モササウルス類）やユーパキディスカス（アンモナイト類）、ナナイモテウティス（コウモリダコ類）などの化石が見つかります。このことから、“ホベツアラキリュウ”が生息していた約8,300万年前～約8,100万年前（後期白亜紀カンパニアン）の穂別には、大型の海生爬虫類を生態系の頂点とする豊かな海が広がっていたと推測されます。

北海道指定天然記念物（第34号）
北海道遺産（第64号）「むかわ町穂別の古生物化石群」

57 “ホベツアラキリュウ”

Elasmosauridae gen. et sp. indet.

分類：首長竜目エラスモサウルス科

時代：後期白亜紀（カンパニアン）

産地：北海道むかわ町穂別

復元された全身骨格

